

## 皮膚にできる腫瘍

飼育環境やごはんの良化、医療の発達などにより、犬や猫の平均寿命は年々伸びています。犬や猫も、人と同じく、高齢になるにつれて悪性腫瘍（がん）が発生するリスクは高まります。犬や猫の死因の第一位は悪性腫瘍によるものです。

悪性腫瘍は皮膚のほかに、内臓や骨、血液にまで発生しうる可能性があります。今回は皮膚に焦点を当ててみましょう。皮膚の悪性腫瘍の代表例は、

- 脂肪腫
- 肥満細胞種
- リンパ腫
- 組織球性肉腫

など。組織球性肉腫と似たような名前でも組織球種というものがありますが、この組織球種は鼻や口のまわり、手足にできやすい良性腫瘍です。子犬に発生する腫瘍で、ほとんどが自然に治ります。

できものを良性か悪性か判断することはとても難しいため、病院で詳しい検査が必要です。悪性腫瘍だった場合は、他の臓器に転移していないか、手術すべきなのか、内服薬で治療ができるのか、など、今後のことについて獣医師としっかり話し合う必要があります。

悪性腫瘍は、数週間・数ヶ月という速さで大きくなることが多いです。身体から栄養を奪っていくため、元気がなくなったり、食欲が落ちたりします。悪性腫瘍がさほど進行していない時は、元気や食欲には目立った変化がなく、なかなか気づきにくいので、日々のスキンシップで「何かできものができている」という発見がとても大切になります。また、動物病院での定期的な健康診断も健康への第一歩。

悪性腫瘍は、命に関わることもある恐ろしい病気です。早期発見で治せる可能性が高まりまるため、しっかり観察してあげてください。

